

高知大学農林海洋科学部・農学部  
Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

vol.  
45

December  
2023

# 後援会だより



## ご挨拶



農林海洋科学部・農学部  
後援会長

ながおか しんじ  
長岡 辰治

日ごろは、農林海洋科学部・農学部後援会の保護者の皆様におかれましては、本会の活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となり、社会における様々な制約が緩和され、コロナ禍での経験を踏まえながら、少しずつ日常生活・活動が戻ってきたと感じています。

4月当初の総会は書面決議で実施させていただきましたが、8月以降の役員会・保護者会は通常での開催をさせていただきました。中でも11月の保護者会は、4年ぶりに対面で開催し、多くの保護者の方にご参加いただきました。専門家の方による最近の就職活動の現状等をご講演いただき、本学部・大学院の卒業生・修了生による実際の就職活動や就職先決定の過程、そして実際に就職した会社や仕事の状況などを、卒業生等が体験談の発表やパネルディスカッションをとおして、卒業生・修了生自身の生の声を聴くことができ、保護者としてもとても貴重な情報を得ることができ、大変有意義な会となったと感じています。

これからも、お子様がお充実した大学生活を送ることができるよう、後援会役員の皆様と大学の事務局の方々と力を合わせて、文化・生活面の環境や就職活動などへの支援等を、後援会としても精一杯行っていきたくと考えています。そのためにも、会員の皆様のご支援・ご理解が必要不可欠でございます。今後とも、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様とご家族の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



農林海洋科学部長  
えだ しげ けい すけ  
枝重 圭祐

農林海洋科学部・農学部後援会の皆様には、日頃より学部・専攻の教育運営に多大なご協力とご支援をたまわり、心より御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、コロナ禍による社会の混乱も終息しつつあります。高知大学も5月の連休明けから授業の大半を対面で行っております。8月6日に実施した物部地区オープンキャンパスには259名の方々にご参加いただき、11月の「文化の日」には物部キャンパス一日公開を開催するなど、4年ぶりの行事再開でにぎわいが戻ってまいりました。

農林海洋科学部は令和5年4月に改組しました。今回の改組は、①データサイエンスに基づく一次産業DX教育と六次産業化教育の強化、②内閣府地方大学・地方産業創生交付金採択事業「IoP (Internet of Plants) が導くNext次世代型施設園芸農業への進化プロジェクト」(IoP事業)の成果の学部教育への反映、③高知県への人材輩出の強化を目的としたものです。また、入学定員に新たに地域枠(高知県枠)を設定し、高知県出身の入学生を増やすことにいたしました。この学部改革を通じて、高知県における陸域・海域の資源を活用して生物生産システムをスマート化するために必要な知識を教授し、地域社会の発展のために新技術の開発・普及や新規起業を牽引できる人材を育成するとともに、高知県内唯一の国立大学として地域への人材輩出をより一層進めてまいります。

また、令和4年度に愛媛大学と高知大学で応募した「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」が採択され、令和5年度中に物部キャンパス内で新棟の造営と淡水魚飼育実験棟の改修が行われます。これにより海洋資源生産学分野とIoP事業関連の研究の促進が期待されます。

新しい農林海洋科学部は、激動する社会情勢に対応しながら、地域社会の発展に貢献できる人材を育成してゆく所存です。今後とも何卒皆様からのご理解とあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 学生への 支 援

課外活動、就職活動などを支援し、また、卒業記念品贈呈や卒業生祝賀会を行います。

## ▶ 物部地区留学生交流懇親会

10月には高知大学物部地区留学生交流懇親会が4年ぶりに開催され、長岡会長が来賓として招待されました。テーブルには職員手作りカレーなどの料理が並び、スピーチやゲームでそれぞれ交流を深めていました。

また、ゲーム勝者となった留学生には、プレゼンターの長岡会長から景品が授与されました。



懇親会当日の様子

## ▶ 就職説明会

11月3日、4年ぶりの高知大学物部キャンパス一日公開に併せて、当後援会による「就職説明会」を開催しました。

参加いただいた約150名の保護者やご家族は、(株)マイナビからの講師による講演やOB・OGの体験談に熱心に耳を傾けていました。お土産に配られたお米(大学の農場で今年収穫)も好評でした。



(株)マイナビによる講演の様子

## 支援内容について

### ▶ 課外活動支援

体育施設維持整備  
(暗幕カーテンリニューアル)

スポーツ用品  
(ラケット・ボール・シャトル等)



### ▶ 就職活動支援

就職関係誌購入  
就職活動ガイドブック作成  
面接対策特訓セミナー  
講師謝金



### ▶ 卒業記念

記念写真  
記念品  
証書ホルダー  
祝賀会



### ▶ その他

日章寮役員と学部長等の  
懇談会(昼食弁当支弁)



学生表彰  
記念品  
保健衛生  
消毒エタノール等

## 事業運営

後援会事業などの運営に関することは、主に「役員会」、「総会」において計画・執行され、活動内容は「保護者会」や「後援会だより」などで情報発信をしています。

後援会だより  
発行  
【年1回】



# 旅行してとても気に入った 故郷の隣県で公務員に

1.

就職先 静岡市役所

農林資源環境科学科  
森林科学主専攻 4年いわみ  
岩満 まどか

## ▶ 高校文系コースからなぜ理系へ!?

高校では文系のコースを選択していた岩満さん。それなのに理系の学部を志望したのは、環境問題に対する思いが強くなったからだといいます。「地球温暖化の解決には森林が必要だとよく聞くようになり、学んでみたいと思うようになりました。地元の愛知県一宮市には森林がないので、逆に興味が湧いたのかもしれない」とコース変更の理由を話します。全国の大学を調べて、独自の演習林を持ち、フィールドワークもできる高知大学のことを知り、学びたいという気持ちが高まったそうです。

農林資源環境科学科に入学後、2年時から森林科学主専攻を選択。特に面白かった授業は、フィールドで葉や枝の特徴を観察し、標本作成も行う「樹木学実習」だったといいます。NHKの連続テレビ小説『らんまん』が放送されたとき、「ああ、こうやって標本を作るんやなど、ドラマに親近感を覚えました」とこやかに語ります。3年生後期から、紙やパルプなどの木材化学を専門とする研究室に所属し、紙おむつをテーマに研究をしています。

実験に追われる学業に加えて、アルバイトでも多忙な日々を過ごす岩満さん。学習塾の事務職員、大学生協での賃貸物件紹介や商品販売、ショウガの収穫作業といった幅広い業種に従事してきました。

## ▶ 公務員志望の友人と支え合って

高校を卒業するころから、公務員になろうかなと何となく思っていたという岩満さん。就職活動を始める3年生のときに、公務員を目指すとはっきり決めました。「もともとお祭りなどの地域の行事が好き。そういったことに貢献できるのは、やはり公務員だと思いました。それに両親も公務員をすすめていたので」と志望動機を明かします。実現には試験に合格しなければいけません。岩満さんは大学生協の公務員試験対策講座を視聴し、研究や授業の合間に勉強を重ねました。加えて、



自己PRの練習を兼ねて民間企業にもエントリーし、面接などの経験を積みました。

公務員試験の実施は4年生時の5月以降と遅く、民間企業を志望した友人たちが先に就職を決めて、ちょっと焦りを覚えることもあったとか。そうしたなか、「同じように公務員を目指す友人と一緒によく勉強し、これがモチベーションの維持に役立ったと思います」と振り返ります。

## ▶ ワークライフバランスも考慮して決断

岩満さんは複数の行政の公務員試験を受験。そのなかで、愛知県庁と静岡市役所の2次試験の日程が被ってしまいました。岩満さんが選択したのは、地元の愛知県庁ではなく隣県の静岡市役所。「以前に旅行したことがあり、お魚がおいしく観光地も多いなど、とても印象が良かったんです。この街の行事や観光を盛り上げたい、というのが選択した理由です。地元にも新幹線ですぐに帰れるし、東京にも行きやすく、ワークライフバランスもいいと思いました」

面接で心がけたのは、「静岡市を大好きだとアピールしよう」という学務室のアドバイス。事前に静岡市のことを深く調べておき、特産物や観光などのいいところだけを話したそうです。この作戦も功を奏してか、見事、難関を突破しました。「観光課をはじめ、

希望する配属部署はいくつかあります。お茶やワサビなど、中山間地域の特産品を発展させる取り組みなども考えてみたいですね」と抱負を語ってくれました。



よさこい祭りを見て、  
すごく盛り上がりました!



# 子どものころからの「夢」 公務員として高知県に残る

2.

就職先 高知県庁

海洋資源科学科  
海洋生物生産学コース 4年さきむら しゅうすけ  
笹村 柊介林  
海  
洋  
科  
学

## ▶ 釣りをしたくて高知大学へ!?

広島県出身の笹村さんは、趣味の釣りを通じて魚に対する関心が高まり、海洋資源科学科を志望しました。「高知なら釣りができそうだ、というのも動機の一つです」と笑顔で明かします。中学生のころから、「将来の夢」は公務員。大学入試の面接では「卒業後は水産系の公務員になりたい」という思いを伝えたそうです。2年生から海洋生物生産学コースで魚の生態や栄養面を学び、3年生後期に魚類の飼料を研究する研究室に所属しました。笹村さんの研究テーマは、大豆たんぱくなどの植物性飼料。「近年は魚粉の価格高騰などから、植物性飼料が注目されています。しかし、魚の成長が遅くなったり、生理不良が起こったりすることもあるので、その原因を探っています」

勉強に加えて、当初の計画通り、釣りにも熱中しています。ワンボックスの軽自動車を購入し、高知の海や汽水域、溪流などに繰り返し釣行。2年間で7万キロも走破しました。北海道にも遠征し、ヒグマの足跡が残る湿地帯に入り、サケ科の巨大魚であるイトウも釣り上げました。釣り道具や釣行にかかる費用は、農作物収穫やウナギ養殖場などでアルバイトに励んで賄っています。

## ▶ 実家での猛勉強の甲斐あって合格!

就職活動は公務員志望の一本に絞り、民間企業にはアプローチしませんでした。「大学入学当初から、両親には公務員を目指す伝えていました。農家や養殖場でアルバイトをしたのも、水産系の公務員を志望していたことから、一次産業に従事する人と触れ合いたかったからです。広島と高知、どちらの県庁を受けるか迷いましたが、暮らしやすく、人の気質も自分に合っている高知に決めました。それに、もっと高知で釣りをしたいなという思いも(笑)」

公務員試験に向けては、「独学のほうが自分の性格に合っている」という考えから、公務員講座などは受講しないで



臨みました。幅広く出題される教養科目は過去問題集で対応し、専門分野は大学での学びを復習。志望動機のチェックや面接の練習は学務室の力を借りました。「3年生が終わったあとの春休みに実家で1か月間、集中的に勉強できたことが大きかった。サポートしてくれた両親には感謝しています」と振り返ります。合格発表があったのは8月10日の朝。実家でメールを受け取り、親子で喜び合ったそうです。

## ▶ 高知の水産物をもっと有名にしたい!

面接試験では、「高知の豊かな自然や人の温かさに触れたことから、高知に貢献したいと志望しました」と話した笹村さん。子どものころから目指していた公務員として、大好きな高知で羽ばたくことを夢見ています。「高知県は良い水産物がたくさん獲れます。もっと普及させて、有名にしたい。養殖についても、宿毛のクロマグロなど、あまり成功例のない魚種に取り組んでいます。これらを全国に知れ渡らせたいですね。近年、漁師の数が減っていますが、若手の掘り起こしについても取り組んでいきたいと思っています」と抱負を力強く語ります。

加えて、「仕事も楽しみながらやっていきたい」とのこと。笹村さんの楽しみといえば、もちろん釣り。「釣り場が多い地域に赴任した

場合、仕事のあとで釣りに行けるかも。県西南部が担当になったら、四万十川で汽水域の巨大魚、アカメも釣ってみたいですね」と目を輝かします。



面接の点数が良かったのは学務室のおかげです。





## 大の釣り好きの就職先は 釣り具で超有名なメーカー

4.

就職先 グロープライド株式会社

農林海洋科学専攻 農芸化学コース 2年 栗本 壮



### ▶ 入学当初から大学院への進学を希望

大学に進学するなら、小さなころから大好きだった生き物について勉強したいと思った栗本さん。学べる大学を調べるうちに、高知大学ならフィールドがキャンパスのすぐ近くにあることがわかりました。学科については「生物に加えて化学にも興味があったのと、幅広い分野を学べるので就職する際の選択肢が広がろう」という理由から農芸化学科を選びました。

理系出身の父親から、「理系に進学するのなら、専門性を身につけなさい」と言われていたこともあり、入学当初から大学院に進学するつもりだったそうです。3年生のときに、バイオプラスチックを探求する研究室に入り、大学院でも引き続き研究に取り組んでいます。

### ▶ 趣味が高じて、研究テーマも釣りがらみ

栗本さんの学生生活を語るには、釣りが欠かせません。釣り同好会の部長を務め、淡水域・汽水域に生息する日本最大級の魚であるアカメ釣りにも熱中しました。得意とするのは、疑似餌を使ったルアー釣り。研究室でも趣味を活かして、ルアーを研究対象にしています。「魚がルアーに寄って来ても、ちゃんと食べ切らないで、針にかからないことがあるんです。これは本物の魚とは違って、ルアーがヌルヌルしていないからではないか。こう考えて、水に浸けたらヌルヌルするルアーができれば面白いと、その研究に取り組んでいます」

こうした釣りに対する熱い思いが、じつは就職活動にも奏功しました。栗本さんが就職活動をはじめたのは、大学院に進学してすぐ。当初は研究分野を活かして、化学系の会社などにアプローチしていました。しかし、就職活動を進めるうちに、「自分にしかできない仕事って何だろう?」と考えるようになったといいます。模索するなかで、興味をひかれた企業がグロープライド。釣り好きには「DAIWA」のブランド名



でなじみ深いスポーツ用品メーカーです。「最初は、釣り具業界ものぞいてみようかな、という軽い気持ち。でも、説明会やインターシップなどを経験するうちに、自分の気持ちがどんどん傾いていきました」

### ▶ 自分らしく生きるのに最適なアンサー

ほどなくグロープライドは、栗本さんの第一志望に。それどころか、もうこの会社しかない、というほどの強い思いを持つようになりました。「両親に気持ちを話すと、はじめのうちは、学んだ分野と全然違うのに?と懐疑的でした。でも、どういう意志を持って働きたいのかを伝えると、あなたが決める人生だから応援するよ、とってくれました」と感謝の思いを話します。学務室で面接の練習を積んだことも効果があり、栗本さんは見事、グロープライドの内定を勝ち取りました。「自分らしく生きるにはどうしたらいいのか。こう考えたときに、いま出せる最適なアンサーがこの就職先だと思います。まだ配属先はわかりませんが、どの部署であれ全力で向き合っていきます」

「高知大学に来て良かったですか?」という質問には、「すごく満足しています。都会で学生っぽく楽しむ、というのはまったく違って、本当に自然豊かな環境のなかで、生き物に触れながらのびのびと勉強することができました。自分の関心を最大限伸ばられる環境だと思います」と晴れやかに答えてくれました。



学会での口頭発表は  
すごく緊張しました。



## ▶ 小さな病害虫を研究して、農業を支えたい!

農林資源環境科学科  
生産環境管理学プログラム 4年

ざい ぜん かの か  
財前 香花

大分県の自然豊かな地域で生まれ育ち、祖父母が稲作や畑作をしていることもあって、農業を身近に感じていました。なかでも野菜などについている虫に興味があり、その研究をしたいと入学しました。生物学科のある大学も候補として考えましたが、自分が好きなのはカブトムシなどのいわばカッコいい種類ではなく、田畑や自然のなかにいる小さな虫たち。こうした思いから、虫と農業の関連性を学べそうな農林資源環境科学科を志望しました。

3年生で研究室を決める際、やはり自分のなかで大事にしたかったのが虫が好きだという気持ちです。虫の生態を専門とする研究室にもひかれましたが、学部で幅広く学ぶうちに農業を支えたいという気持ちが強まり、水環境を分析している研究室に所属しました。私が取り組んでいるのは、水に含まれる遺伝子から虫の種類を同定する研究です。まず、野菜の葉に水をかけるなどして、葉にいたごく小さな虫やフン、抜け殻などを採集します。



その水から遺伝子を抽出して分析し、どういう虫なのかを明らかにします。この研究なら、虫にかかわれるし、農業に役立てることもできる。水棲昆虫の研究でよく使われる手法ですが、農業害虫ではあまり行われていないこともあり、とてもやりがいを感じています。

大学院への進学を考えるようになったきっかけは、3年生のときに参加した高知県農業技術センターのインターンシップ。病害虫を対象とした研究がとても面白く、私ももっと研究したいと思ったのが理由です。大学院では、研究を進めるなかでの考え方の道筋や、研究者間のコミュニケーションの仕方などを学びたい。将来的には大学院で身につけたことを活かして、虫や生き物にかかわるような仕事をしたいと考えています。

## ▶ 熱帯の魚が引き起こす食中毒の原因を発見したい!

海洋資源科学科  
海洋生物生産学コース 4年

おお はら しょう た  
大原 翔太

海洋資源科学科を志望したのは、和歌山県の海のそばで生まれ育ち、海洋に興味があったからです。入学当初は生物に関心をひかれたのですが、幅広く学んでいくうちに、興味の対象が環境などにどんどん広がっていきました。なかでも水族環境学の授業がすごく面白く、先生も熱心に指導して下さるという話を聞いて、研究室に入りました。

研究テーマは、サンゴ礁などに生息する魚が引き起こすシガテラ中毒という食中毒です。もともとは植物プランクトンに毒があり、食物連鎖に伴って魚に蓄積し、人間が食べて食中毒を発症すると考えられています。しかし、その原因となるシガトキシンという毒を作る植物プランクトンがどういう種類なのか、じつは日本ではまだわかっていません。そこで、何が原因になっているのかを明らかにしようと、日々、研究室で実験に取り組んでいます。具体的には、食中毒がよく発生する沖縄などから、植物プランクトンが付着していると思われる海藻を送ってもらって、研究室で育てて解析しています。

入学当初、大学院に進学しようという気持ちは強くありません



でした。けれども、学部生が研究できる期間はわずかしかないので、せっかく研究に取り組んでも絶対に終わらない。ここで研究をやめたら後悔するに違いない。どうなるのか結末を見届けたい、と強く思って進学することにしました。

いまの研究を続けて、シガトキシンを作る植物プランクトンを見つけることができれば、日本初の発見者になれる。とても誇らしいのではないかと想像しています。現時点では手探りの状態ですが、何とか大学院在学中に結果を出したいですね。



高知大学学章(シンボルマーク)

未来へ向かって飛躍し、希望に満ちた新生「高知大学」のイニシャル「K」をモチーフに、青色で太平洋の波涛と黒潮を、空色で若者の可能性と大空とをそれぞれイメージし配色。躍動感あふれた新生「高知大学」を表しています。